

### 第3回 金沢競馬検討委員会 会議録（要旨）

日時：平成17年9月8日（木）13：30～

場所：石川県庁11階 1105・1109会議室

#### 1 開会

#### 2 あいさつ（石川県競馬事業局長）

#### 3 委員研修

講師 東日本税理士法人 代表社員「長 隆」氏  
演題 「地方競馬のあり方と今後の展望」

#### 4 競馬関係者からの意見聴取

##### (1) 意見聴取スケジュールの説明

##### (2) 意見聴取

##### ○（社）石川県馬主協会

- ・ 関係団体を何とか1つにまとめ、経費の節減や、できる限りの振興策などを5年程前から皆さんと熱心に議論し、年々に進めてきた。
- ・ 日本の経済の悪化により、一般の方々の収入、仕事が激減し、競馬ファンにも直撃しているというのが地方競馬全体の流れの中にあって、金沢競馬だけを右肩上がりにするということは、非常に難しい。
- ・ 何とか新しい「ニュー競馬」でも立ち上げなければ、今までどおり、馬を走らせ馬券を売っているだけでは、競馬ブームが復活することは難しいのではないかと。
- ・ 自由民主党の参議院議員連盟が地方競馬推進ということで、法改正などを柱に議論しているが、各主催者の環境が違うため、主催者協議会と議員連盟の動きの歯車が噛み合わず、直接、大きなメリットとなるような効果的な法改正とはなっていない。
- ・ 先日、議員連盟の鈴木政二幹事長と橋本聖子事務局長が金沢に視察においでで、議員連盟の動きなどについて説明をされたが、自分のところで改善策なりを精一杯やる意志のないところは支援はしない、消極的なところは支援しない、というようなことで、厳しい意見を述べられた。
- ・ 金沢競馬では全体のレースで2,000万円程しか売れないのに、賭式が多すぎる。やはり庶民的なレジャーということで、お金の回転が効くような、1日で2～3回は的中できるような、楽しみが持たれるようなレースを提供していかなければならない。
- ・ 昨今の状況では、無償で馬をもらっても1年間に40～60万円の損失が出るということで、馬主全体では、年間約5～6億の損失ということに

なる。馬主が馬を確保するのが大変で、今年にいたっては馬主が減ってきており、特に多頭数の馬を持っていた人がほとんどいなくなってしまった。

- ・ 新しい馬主を確保するためには、500万円以上の所得というハードルが高いのではないかとということで、組合馬主の制度が認められているが、現状では馬主が増えてきている状況にない。
- ・ 夢あるスターホースを育てなければならないということで、新馬の購入に対して県から助成をもらっているが、申し込みも少なく、無理矢理頼んで買ってもらっているというのが状況である。
- ・ 金沢競馬は、これまで長い間、県・市の財政に貢献をしてきたが、そういうことの頑張りを全然議論されずに存廃の問題だとか、これ以上赤字になったらどうするのかというマイナスのPRばかりが報道され、その結果、その2、3ヶ月はガタッと売上げが落ちた。
- ・ 関係者が一丸となって厳しい経費の削減にも応じ、何とかやれるという状況で、まだ若干、収支均衡には達していないが、これから秋口に期待をかけて良いレースを提供して、何とか収支均衡にしたいと思っている。
- ・ 競馬そのものを良くしなければ、いくら経費を削減してもお客さんはいつも同じ顔ぶれであり、若い人たちが増えてきているという傾向が見られない。ファン層が少しでも若返るようなことも対策として立ててもらいたい。
- ・ 今、この状況の中では、馬主の賞金や手当を上げてくれということはいえない。馬で生活してきた関係者が、この厳しい雇用難の時代に、一般の社会に出て生活していけるのかと考えたときに、やはり、やれる間は、お客さんのある限りは続けて欲しい。経済が上向けば、また自然と上向いてくるのではないかと期待している。
- ・ 何か夢のあるような、爆発的な人気が出るような、我々の知恵では考えられないようなものが出て、再び競馬ブームということにでもならないか、大きな期待を持って見守っていきたい。

(質疑応答)

委員： 賭式が多すぎるといった話があったが、単純な投票方法にすれば、もっと色々な人が投票して当てやすいという意味なのか。

関係者： 中央競馬のように1レースに何億円の売上げがあれば、賭式が多くてもそれなりの楽しみ方ができると思うが、地方で多くの賭式があると、落胆する人が多すぎる。当たる人が1人で、損する人が1,000人という状況ではマッチしないのではないのかとも思うが、それでもやらなければならないような現状が、大変苦しく、ジレンマを感じている。

委員： 競馬事業というのは収益性の求められる事業であるということで、収益性をもっと確保できる妙案について、賭式の問題やその他に抜本的な打開策的なものがあればお聞きしたい。

関係者： これまで、できる範囲内のことは全国に先駆けてやっていると思うが、それだけではファンに喜んでもらえないということが、少しずつ分かりつつある。

パチンコや他の娯楽よりも面白いということ、新しい人たちにPRできるような何かがないかと思っている。

何とか収支をあわせ、関係者を守りながら、競馬に貢献してきたファンの皆さんを楽しませてあげたいというのが、馬主協会の理事の考えであり、賞金、手当、補助金を上げて欲しいという要望は極力出さないように、みんなが良くならなければ自分たちも良くなれないという考え方で事業を進めている。

今の法改正なり、地方の支援なり、もう一回地方競馬を組み替えて、ネット販売といったものも含めて、収益性が見合うような競馬にしていだけないかということ、ぜひ、検討委員会の皆さん方から支援していただければ、少しは前進するのではないかと思っている。

○ 石川県調騎会（調教師）

- ・ 調教師の立場から言わせてもらえば、現在は大変苦しい経営状態となっている。
- ・ 昨年賞金・手当が減り、調教師の経営がものすごく大変であり、苦慮している。
- ・ 馬の確保のため、預託料を平成15年度に13万円から12万円に下げたが、12万では経営が大変であり、自分らの技術料自体がほとんどなくなってきた。  
きゅう務員の人件費もある程度抑えさせてもらい、今1頭につき6万円前後で我慢してもらっている。
- ・ 馬主も馬を維持するのに1ヶ月に2～3万円の足し増しになり、無料の馬をもらったとしても、1年間で30～40万円は足していかなければならないため、馬主の競馬離れがどんどん進んでおり、馬の確保につながらない結果となっている。
- ・ 馬主に1頭でもたくさん持ってもらうためには、なるべく負担が少なくなるような方向に持っていったらいいのではないかと思います。
- ・ 各地で競馬場が廃止されるなど、馬自体がいなくなってきており、来春は大変だと思っている。
- ・ 馬主に対する負担が少しでも減れば、馬の確保ができて、調教師も少しは頭数確保になるのではないかと思っている。

（質疑応答）

委員： 調教師全体で平成16年度は相当の赤字となっているのか。

関係者： 平成16年度は、手当と賞金を足して、1人あたり250万円程で、1人の調教師に対して平均16馬房もらっているが、馬屋は3分の1ぐらい空いている。

委員： 若干黒字になっている厩舎もあれば、赤字の厩舎もあると思うが、どのような状況か。

関係者： 調教師は42人いるが、多いところは30何頭、少ないところは10頭ほどしか管理をしておらず、それだけでも大きく違う。空い

ている馬房数がすごく増えている状況で、馬が集まらないと経営困難になってしまうことから、出走手当を含めた部分をもっと確保して欲しい。出走頭数も増えればお客さんも買ってくれるし、馬の確保というのがここから先問題になってくると思う。金沢競馬は冬期開催がないので、他の競馬場に持っていかれると、管理頭数がいなくなり、給料を払うこともできない状況になってしまう。他の競馬場もなくなり、馬が基本的に少なくなってきたため、入れることは困難で、馬の確保が一番の問題でないかと思っている。

委員： 冬場はレースがないことから、馬が外に出て行ってしまいが、出て行った馬は、100%金沢競馬に戻ってくるのか。

関係者： 成績の良い馬は他場に持って行って使われるが、成績の悪い馬は殆ど乗馬なり、と殺、処分されてしまうので、戻そうと思っても戻せない。新潟、高崎、上山の廃止があったため、その調教師が何とか馬を持ってきてくれ、補充しながらやってきたが、それも限界がくると思う。出走手当など馬主が管理するために必要な部分を何とかしていかないと馬の確保は難しくなると思う。

委員： 調教師が42名いるということであるが、数年前まではもう少しいたのか。あるいは、金沢競馬としては、人数がテンパイで、42人体制できているのか。廃業していく人の馬を預かるといった形のことか今日まで行われてきたのか。

関係者： 42人がベストではないが、馬が入らなければ仕方がない。県外から入ってくる馬は、馬主も県外の人になる。調教師は、ほとんどが自分で馬を確保できないから辞めていくので、辞めた人から他の厩舎に（馬が転厩する）ということは余りない。

委員： 廃止された県から金沢に来た調教師は何人ぐらいいるのか。

関係者： 10人。

委員： 調騎会としては、入ってくる人にはどうぞ自由という感じなのか。

関係者： 受け入れないと競馬ができない。34人でも馬が800頭いれば競馬はできるが、今は他の県から来て700頭の状態である。

委員： 県外の馬主と県内の馬主の割合はどれくらいか。

関係者： 全体で400人ほどで、石川県内では160人ほどである。

委員： 中央競馬と金沢競馬の両方持っている馬主は、どれくらいいるのか。

関係者： 中央下がりの馬の流れが多くなってきているので、かなり増えてきているとは思う。

委員： 前回、厩舎を見学したときに、空き馬房が多く、これは何とかしないといけないなと感じたが。

関係者： 馬の確保が一番大事なのは、経費が2回使って（1月あたり2回出走）ペイできるような出走手当というものを上げてもらわない限り、これはずっと続くと思う。

委員： 売上げが伸びないと、難しいと思うが。

関係者： 売上げの内容というのが、把握できない。4日間で5億何千万売れているが、内容が全然分からず、ただ赤字といわれるだけで、自分たちだけが締め付けられている。県の職員は競馬が潰れてもどこへでも行けるが、自分たちは行くところがないので、そういうことをはっきりさせて欲しい。

委員： 調騎会とすれば、これからどんなに厳しくても最後までやりたいという気持ちがあるのか。

関係者： やっていく気持ちでここに来ている。やりたいし、本当に強い馬も出したいし、スターホースも出したいと思っている。中央に負けない馬をつくりたいが、それがこういう形で抑えられてできなくなっている。

委員： ブロック化を農林水産省が進めており、助成金も出るのではないかと思うが、それについて調騎会はどうしているか。地方、他県との交流を活発にしていきたいという気持ちはあるか。

関係者： 東海より近畿で売ってもらった方が売れるような気がする。そういう意味では、他の県と協力すれば何とかもう少し良くなるだろうという期待は持っている。

ブロック化になってそれが良い方向に行くのか悪いのかやってみないと分からない。やってみなければわからないことであればやって欲しいと思う。

委員： 競馬事業というのは、収益事業の一環でもあり、一番の課題は集客性を上げて、売上げを上げなければならないということで、何か良い知恵があれば提案してもらいたい。

関係者： 賞金の大きい部類（重賞レース）の売上げは、平常よりも伸びる。毎回とはいかないかもしれないが、1開催に1回とかしたら良いのではないかと思う。

どこかでミニ場外みたいなもの、宝くじ感覚的なものができればどうかと思う。来たら売ってやるというやり方でなく、こちらから買ってくださいというぐらいでないとダメだと思う。広域場外とかミニ場外とかあれば、競馬場まで行けないという人でも買う人も出てくるし、アンテナショップみたいな感じでやってみて、その結果をみて判断すれば良いと思う。

馬房が空いているとか、競馬の売上げというのは、馬主の数を減少させていることが一番の原因だと思う。フルゲート、12頭で出走させるには、馬主の確保が最短の方法だと思う。集客率やそれに伴って高配当が出たり、夢を売る商売であり、それなりのファンもそれで引きつけられると思う。賞金を稼げる馬は一握りで、4着までしか賞金がなく、6～7割の馬主は赤字である。馬主は（馬を）買うときは夢を買うわけであり、大枚はたいて買う馬の維持費に負担をかけないような競馬場作りをしてもらえれば、自然に多頭数レースが組め、それなりにファンも付くし、おもしろい馬券も高配当も出て、夢を買えると思う。検討委員会の皆さんには、その辺の競

馬の内情というものを加味してもらって力になってもらいたいと思う。

○ 石川県調騎会（騎手）

- ・ 金沢競馬は赤字経営ということで収支均衡策をとっているが、競馬に直接従事している調教師、騎手、きゅう務員は、賞金・手当がピーク時の大体1／5弱になっている。この先、競馬を残すだけのやり方では、内部崩壊するおそれがある。
- ・ ここ3年、調教師、きゅう務員、騎手で、だいたい100名前後の仲間が辞めていっている。
- ・ 競馬場の人間は、一企業と一緒に、自分たちは社員みたいなものである。社員のモチベーションが下がれば利益が上がるということはないと思う。モチベーションが上がるようにして欲しい。
- ・ 2年でも良いので、はっきりした事業計画を提示してもらい、資本注入してやる気を出してもらいたいと思う。それが自分ら関係者の思いであり、競馬の活性化、収益の向上になるのではないかと思う。
- ・ 売上げがないのに賞金を出せるかと正直思うかもしれないが、賞金を上げるということは、質の良い馬を馬主さんに買ってもらい、それによってスターホースが出る確率が高くなり、若いファンも競馬にきて、競馬のイメージもアップし、収益が上がるということではないかと思う。
- ・ 新聞紙上で見たことではっきりとはわからないが、過去何十年間に700億円前後の金を投入（県・市財政への寄与）して、積立金も現在22億円ほどあると聞いており、そういうことを考えると県・市に700億円を投資してきた自負がある。
- ・ 細かいことはわからないが、国や県で行っている計算で単式簿記について赤字という言葉の定義が、ちょっと理解できない。
- ・ 4日間開催で5億円を超える売上げがある中で、存廃論議がでてくることが、関係者にすればモチベーションが下がっていくような感じであり、若い騎手は心配で浮き足だってしまう。
- ・ ある程度、1～2年先の事業計画をしっかりと立て、資本注入して、スターホースが出るようにすれば、若いファンも競馬場に来ると思う。
- ・ 大井などではナイトー競馬を実施しているということで、今の金沢競馬の施設からして、だいたい6～8千万円程でナイトー設備ができるのではないかという意見もある。ナイトー設備になれば、昼に来られないお客さんも来ることができ、集客率がアップするのではないかと思う。

（質疑応答）

委員： 騎手の収入となると、進上金だけなのか。所属厩舎から多少なりとも給料は出ているのか。だいたいどれくらいか。

関係者： 独身で5万前後である。

委員： 進上金は平均すると年間どれくらいなのか。

関係者： 均等ではないが、今年に関しては年間4億円の賞金が出されているので、1開催で2,000万円、5%の100万の進上金を在籍

人数の27名で割ってもらえばよい。

委員： 他場との交流が結構活発になったが、もっと交流を活発にして欲しいといったことはあるか。

関係者： 当然、時代の流れである。ただ、交流するといっても、良い馬が（在厩馬として）入っていれば太刀打できるが、今の状況では太刀打できない場合がでてくる。

委員： 冬場には開催がないが、その間、ベテランは笠松や名古屋に行くと乗れると思うが、若手はほとんど乗れない状況なのか。

関係者： 反対で、若手が行って、自分たちはほとんど乗っていない。

委員： 1～3月の間の騎手の収入はどういう状態になっているのか。

関係者： 基本的にゼロである。厩舎によって、もらえる厩舎もあるかもしれないが、ほとんどない。

委員： 競馬事業は収益事業であり、何とか収益を上げないことには存続は難しい、そういった観点から集客を上げて収益を上げる、それが一番の課題のように思うが、集客を上げるのに何か良い案はないか。

関係者： 競馬はスピード感だと思う。現在のレベルの馬ではそこまでスピードがでないので、見ててもそんなに迫力がないと思う。

委員： こうすれば金沢競馬にもっとファンを呼ぶことができるということはないか。

関係者： 競走馬にはクラス分けがあり、下の方のクラスで長い距離を走らせると、上と下の差が開いて面白くないレースになってしまう。距離に幅を持たせて色々な距離を走らせれば良いという考え方では良くないと思う。

賞金を上げないことには、いくら考えがあって、案があって、努力をしても、馬主は経済的に金がかかるので、今の現状では難しいと思う。守りに入るのではなく、資本を先に投入して賞金を上げて、2～3年やってみてダメなら、廃止という形でもやむを得ないと思う。何もせずに、先の見えないような今の状態では困る。本心から言うと存続を重点に、何とか前向きな話で活性化して欲しい。

委員： 平均のレベルで、何頭ぐらいが金沢競馬の馬場にあっていると思うか。

関係者： 頭数よりも金沢競馬で一番面白くないのは、アップダウンのないコースだと思う。騎手の技術だけではどうにもできないような競馬場なので、馬場のつくりを直せばもっと面白い競馬ができると思う。

委員： 最近は馬とともに騎手も主役である。売上げ増にはファンの獲得しかないと思うので、できれば終わった後、握手会だとか色々なイベントをやって、頑張りたいと思う。

関係者： これまでも、それなりにはやってきたが、今、おっしゃったことを承り、こちらの方でも検討したいと思う。

○ 石川県きゅう務員共助会

- ・ 平成12年度以降、予算時に赤字を出さないためにということで、公正

管理手当、開催手当、きゅう務員手当、全てにおいて減額、さらに給与面においても厳しい状況におかれ、耐えているが、平等な減額が行われているのか疑問であり、主催者から何の前向きなビジョンも示されずに現在に至っている。

- ・ 平成12年当時、局長に対し、減額ばかりでなく金沢競馬のファン増に力を入れていかなければ将来はないと言い続けてきた。
- ・ 我々は、八田西町会の協力を得て、運動会やファン交流イベント、北国ガン基金寄付をはじめ、競馬を知らない人たちにもこの場所に足を運んでもらい、ファンを1人でも増やす努力を続けている。
- ・ 将来については、親子で楽しめる公園広場でのスポーツ大会やフリーマーケットの開催でギャンブル色を払拭し、楽しく時間を過ごせるレーシングパーク的な金沢競馬に変えて、ファン獲得に全力を注ぐべきだと思う。
- ・ 経営面で表に出てこないところの明確化と競走馬の全力で走る姿の美しさを多くの人にアピールしてもらい、いま直面している問題解決に検討委員の皆さまのお力をお借りしたいと思う。

(質疑応答)

委員： 月20万円で、家庭もあって生活ができるのか。

関係者： 今まで蓄えた貯金を削って生活費にあてている。

他県の経営状況はわからないが、全国で4番目に入っていた金沢競馬が赤字というのには納得できない。収支均衡にならないのは、どこかに問題点があるのではないか。その辺はしっかり検討してもらい、長期ビジョンを示してもらいたい。我々にとって競馬はギャンブルではなく、生活の糧である。これだけは理解してもらいたいと思う。

委員： 金沢競馬を改善して、維持していくために一番良いと思われるものが何か1つでもないか。

関係者： あれだけの施設があるので、競馬オンリーではなく、施設を有効利用するという手もあると思う。

テレビを見ながら投票する方法もあるし、大きい物を想像するからコストがかかって難しいのであって、電話1本で購入できるような専用場外でもあれば簡単に馬券を買うことができると思う。

委員： 施設や馬場の更なる利用について何か意見はないか。

関係者： レジャーが多様化しているので、ギャンブルの馬券だけという世界では無理だと思う。芝生公園も無料であるし、子供たちが来れば、親が来る。あそこに来て馬を見て、100人の内1人でも新しいファンが確保できれば良いと思う。お金をかけなくても、アイデアだけでも、色々な方法で競馬の魅力を伝えることができると思う。馬場は競走馬の走る部分でなかなか制約があるが、平成13年には、馬場を使って、競走馬の気分を実際に味わってもらおうと、出走ゲートの中に入れてもらって馬場を歩いてもらったということもあった。

委員： 365日、24時間拘束されているような感じであるが、自由に



なる時間、自由になる日数はどれくらいあるのか。

関係者： 自由になる時間は0である。病気とかは別にして、きゅう舎に足を運ばない日は1日もない。

委員： 1きゅう舎に、きゅう務員は何人いるのか。

関係者： 最低、1人3房という基準があるが、きゅう舎の規模によってバラツキがある。

委員： 冬場、馬が外へ出て行く場合、それについて行くということはないのか。

関係者： 全ての馬が移動していくわけじゃなく限定されている。

委員： 診療費はどれくらいかかっているか。

関係者： 昔と比べれば1/3ぐらいである。装蹄は半月に1回だったのが、今は1ヶ月とか1ヶ月半に1回となっているし、診療にいたっては、ほとんどかけられない。

○ 地元町会（才田町、八田町、大場町、南森本町）

- ・ 周辺町会は、場内の売店の出店、清掃及び除草業務、樹木の手入れ、駐車場の管理など競馬事業の運営に対し、相応の貢献をしてきたつもりである。
- ・ 各業務を通じて町会の相当人数の雇用が確保され、従業員はいうまでもなく、町会としても大変喜んでいる。
- ・ 各売店名による冠レースの参加で、ささやかではあるが金沢競馬への支援もしている。
- ・ 馬糞を分けてもらい、畑へ肥料として使うと良い野菜がたくさん収穫できる。
- ・ 場内の出入り口のところで、新しい野菜を生産者が安く直売することで、来場者、生産者ともに喜んでいる。
- ・ 金沢競馬場の存続を強く我々は望んでいる。

（質疑応答）

委員： 売店をはじめとして、どれくらい的人数が関係しているのか。

関係者： 売店組合を組織している4町会では、トータルで20名程で、清掃等のその他の業務については、別に管理会社があり、その従業員として採用されているので確かな人数は把握していないが、全体では相当の人数だと思う。

委員： ファンのマナーが悪くて、新聞を投げつけたりだとか、農作物に被害がでたとかいうことはないか。

関係者： 以前は、駐車する場所がなく、農道にとめたり、町の道路にとめられていたということがあったが、最近は、現在ある駐車場の中で収まっており、迷惑なことは聞いていない。

以前から競馬場の活性化の意見がないかということで、町会で話し合っているが、売店から見れば客が入らないと物が売れないということで、去年、中央競馬の馬券を売った方が良いのではないかという意見がたくさん出た。

委員： 売店は赤字にはなっていないのか。

関係者： 入場者が少ないと売れ残りもあるが、働いている者が地元で、日当なども非常に低額でやっている関係から、赤字にはなっていない。利益になった分はそれぞれの町会の利益として事業に使っており、大変メリットを受けている。

委員： これからの競馬場は、地元の協力がないと成り立たないと思っているが、もう少し大々的に、例えば金沢市内、県外のファンも金沢競馬場へ行けば新鮮な野菜が売っているとか、夏だったら盆踊りを大々的にやるとか、白山大賞典のような大きなレースのときに4町会がまとまってファンのために何かできないものか。

関係者： そういう大きいレースの時には、冠レースの方に協力しているし、野菜販売については、八田、才田、大場、3町にまたがって「八才場（やさいば）クラブ」というグループをつくっており、普通のルートでは買えない非常に新鮮な野菜が安く買えるということで、大変好評である。

競馬の事業に対してアクションを起こすとか、イベントに協力するというようなことは、当然のことながら可能であると思うし、協力できることはやりたいと思っている。

委員： 競馬場から今日までに、出店の家賃を上げさせてほしいという要望などはあったか。

関係者： ない。

## 5 第4回検討委員会の日程等について

- 第4回金沢競馬検討委員会スケジュール（案）の承認
- 第4回金沢競馬検討委員会の開催時期の決定
  - ・ 平成17年11月14日（月）午後
- 第4回金沢競馬検討委員会の公開の決定

## 6 閉会